

## 【結果公表】

弥富市人口ビジョン(案)及び弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に対するパブリックコメントの実施結果については、以下のとおりです。

案件名	弥富市人口ビジョン(案)、弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)		
募集期間	平成27年12月22日(火)～平成28年1月21日(木)		
担当課	総務部 秘書企画課		
募集結果の概要	弥富市人口ビジョン(案)及び弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に対する意見を募集した結果、5人の方から14件の意見が提出されました。		
意見提出数	持参	2人	5件
	郵送	0人	0件
	ファクシミリ	1人	1件
	電子メール	2人	8件
	合計	5人	14件

### 提出された意見と市の考え方

NO	意見・提言の内容	市の考え方																												
1	<p><b>人口ビジョン(案)</b>  <b>P21 ①総人口の将来人口推計:シミュレーション2</b>  <b>P23 ③老年人口比率の変化</b></p> <p>要点:「合計特殊出生率」のみに焦点を合わせず、通常よく使われる「出生率」にも合わせて着目する必要がある。</p> <p>ここでいう「出生率」とは、「厚生労働省(平成28年1月1日)平成27年(2015)人口動態総計の年間推移」で使用されている「人口1,000人」当たりの出生率をさす。「死亡率」も「人口1,000人当たり」をさす。上記の年間推移より数年分を抜粋。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>出生率</th> <th>死亡率</th> <th>合計特殊出生率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1949年</td> <td>33.0</td> <td>11.6</td> <td>4.32</td> </tr> <tr> <td>1980年</td> <td>13.6</td> <td>6.2</td> <td>1.75</td> </tr> <tr> <td>1990年</td> <td>10.0</td> <td>6.7</td> <td>1.54</td> </tr> <tr> <td>2000年</td> <td>9.5</td> <td>7.7</td> <td>1.36</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> <td>1.39</td> </tr> <tr> <td>2014年</td> <td>8.0</td> <td>10.4</td> <td>1.42</td> </tr> </tbody> </table> <p>(以上確定値)</p>		出生率	死亡率	合計特殊出生率	1949年	33.0	11.6	4.32	1980年	13.6	6.2	1.75	1990年	10.0	6.7	1.54	2000年	9.5	7.7	1.36	2010年	8.5	8.5	1.39	2014年	8.0	10.4	1.42	<p>ご意見をいただきましたように、「出生率(人口1,000人当たり。以下「出生率」という。)」が、老若男女を含む全人口を分母とするのに対し、合計特殊出生率は、15～49歳の女性人口を分母としております。人口増減の要因は出生、死亡、移動の3つであり、人口ビジョンではそれを分類して扱っておりますが、出生率をみた場合、死亡と移動の要素を含む総人口を分母とすることになります。</p> <p>そのため、その時点の人口の総数や男女比に関わらない出生力の指標として、「合計特殊出生率」が適当と考え採用いたしました。</p> <p>人口増加を追求できる時代は終わり、地方創生に取り組むことで、今後は人口減少を抑制していかなければならないと認識しております。</p> <p>移動について若い世代の転入超過傾向を維持した上で、その世代の出生率の上昇を図ることが、人口減少の抑制と人口構造の維持に繋がると考えております。</p>
	出生率	死亡率	合計特殊出生率																											
1949年	33.0	11.6	4.32																											
1980年	13.6	6.2	1.75																											
1990年	10.0	6.7	1.54																											
2000年	9.5	7.7	1.36																											
2010年	8.5	8.5	1.39																											
2014年	8.0	10.4	1.42																											

	<p>老若男女からなる人口 1,000 人当たりの年代構成の中で、高齢者が増えれば増えるほど「出生率」は低下し続ける。その一方、高齢者が増えるほど死亡率が上昇する。従って、人口は減少し続けることになる。どのような角度からシミュレーションを推計しても、日本全体だけでなく弥富市においても同様に人口の減少はまぬがれない。人口増加を追求する上で、「合計特殊出生率」のみでは、かなりの力不足を感じざるを得ない。</p>	
<p>2</p>	<p><b>人口ビジョン(案)</b>  <b>P29 (3) 目指すべき将来の方向</b></p> <p>いかにして人口減少を人口増加に転ずるか。方向性はふた通りある。</p> <p><b>その①</b></p> <p>転入者・移住者の方が、「終のすみか」として、選びやすい地域とする。終生の地としての弥富市を、選ばれやすい市街地として推進していく。この方々と弥富市との関わり方には「4つ」のケースがある。</p> <p>ア 住まいは弥富市内、仕事は市外。  イ 住まい・仕事ともに弥富市内。  ウ 仕事が弥富市内、住まいは市外。  エ 職・住ともに市外にあり、買物・娯楽・観光などのために市内に来る。</p> <p>上記のうち、アとイの人々が、弥富市の「登録人口」としてカウントされる。したがってアならびにイの方を弥富市に呼び込んでくる必要がある。そのためかなりの程度、利便性のある住宅地を提供するための施策として、過疎地である「旧十四山地区」で、国道一号線の近辺を「市街化区域」に指定する。おおむね三百島・鍋平・鍋平東を含め、南へ下った地域を指定し、「用途地域」指定は、「第一種住居地域」とする。弥富市内においての「副都心」となり、最寄りの駅は、「佐古木」になる。ある程度の市街化・都市化、すなわち、「街」を形成する。このことは、市街化・都市化することによって、生徒が減少傾向にある小規模校「十四山中学校」の活性化と適正規模化に貢献するという大きなメリットとなる。</p> <p>ここで脳裏に刻んでおくべきことは、現代の人々は、暮らしやすさ・利便性を持つ街・都会に集まる傾向をもつ。ほとんどの人々は、あえて過疎地を求めて移動・定住はし</p>	<p><b>その①</b></p> <p>ご意見をいただきましたように、良好な住空間や緑空間、道路等が整備された市街地は、人々の定住と交流、活力ある産業活動を支える重要な基盤であります。</p> <p>市では、快適・安全・安心な居住環境と産業・文化の集積を生み出す魅力ある市街地の形成に向け、総合計画後期基本計画及び都市計画マスタープランに基づき、市民の皆様との協働のもと、計画的な都市づくりを目指していきます。</p> <p>なお、市街化区域内農地について計画的な宅地化を進めるとともに、駅周辺の市街化調整区域については、土地利用の動向等を踏まえ、市街化区域(用途地域)の見直しの検討を行ってまいります。</p>

ないものである。

### その②

次世代の若者が、弥富市に戻ってきやすい状況を目指して、改善していく。

弥富市をいわゆるベッドタウンとして、桑名・四日市・名古屋に通勤する、さらには弥富市内に居を構え、弥富市内に職をもつ。上記のアとイのケースである。

a) 「子育て」への援助(保育園費・医療費・給食費などを減免・優遇する、他)

b) 無理のかからない「地域コミュニティ」との関係と参加。

・役員、係の過重な負担がない。かつての日本の家族形態とは大きく異なっており、核家族どころか、単独生活者の圧倒的増加へと変化しているのだから、現在の実態を踏まえた地域コミュニティにしていく。

・高額な区費(町費・町会費・自治会費):近隣の自治体の3倍から4倍の区費(自治会費)を払っている現実がある。この意味でも、人口を増やして、町費を500円/月くらいに下げる。そして、この金額で、活動できる「地域コミュニティ活動」にしていく。高額な区費は、過疎地域がかかえるデメリットの側面である。

c) 区長・区長補助員という『2重構造』の形態から、町内会長・自治会長という『平等に見える名称』に変更することはかなり困難なのか。農業主体の地域性から幾分は脱却したような名称・呼称は、「街化・都会化」していく上で存在価値はある。

次の事柄は、現実に深層心理にありうることなのだろうか。地域性・帰巢性の持ち方において、区長の区域で育った若者と区長補助員の区域で育った若者との「意識の違い」は、存在するだろうか、否か。

### その②

a) 少子化対策や子育て支援は、国民・住民が国内どこに住んでいても、一律に保障・提供されるべきものと、地域の状況に応じてのものとは様々な対応が必要であると認識しております。

本市は他に先駆けて中学3年生の年度末までの医療費を無料化にしたり、保育料は国基準の約半額程度の水準に抑制するなど子育てに対する支援を行っております。

また、子育て支援センターや児童館、保育所の充実など様々な取り組みを行っております。

今後も、総合計画後期基本計画や子ども・子育て支援事業計画を基に、子どもを育てやすいまちづくりを行ってまいります。

b) 子育て世帯・世代が、地域で安心して生活を営むために、地域社会(コミュニティ)の充実・育成が必要であります。また、地域住民の方々は、子どもの防犯のための声かけや見守り、子育ての悩みの相談、親同士の交流や情報交換などを地域社会に期待をしております。

このことから、行政として地域コミュニティの推進を進めていくことは少子化対策や子育て支援にも繋がる重要なことであると考えております。

市としまして、少子高齢化の一層の進行など社会・経済情勢の変化を見通しながら、住民自治に基づく個性豊かで自立した地域づくりに向け、コミュニティ活動の活性化を促す環境整備及び支援をしてまいります。

なお、区費等については、地域活動を行っていく上で必要な経費を地域で決め、地域にお住まいの方々にご負担いただくものであります。地域の実情に応じてそれぞれ金額は異なっておりますので、ご理解ください。

		<p>c) 本市では、市行政の円滑な推進を図るため、「区長及び区長補助員」制度を設けております。</p> <p>区長の職務としては、関係区長補助員を統括すること、地区住民の意見を市に連絡すること、市政に関する事項を地区住民へ周知することなどであり、区長補助員の職務は区長の補助、回覧文書・広報等の配布に関することなどです。各地域において、それぞれの立場でご協力いただいておりますので、今後も区長、区長補助員制度を継続し、行政と地域が連携したより良い地域づくりを行ってまいります。</p>
3	<p><b>総合戦略(案)</b> <b>P5 安定した雇用を創出する</b></p> <p>新しい電気事業の時代になる。蓄電池の性能が良く、しかも安価なものが出てきた。弥富市で電気を作り新しく弥富に住んでくれる人には電気代を特別安くする。もちろん条件付きで。</p>	<p>市が電気を作ることは難しいため、関連する企業を誘致することになりますが、本市においての企業誘致は、海拔の低い震災に対する不利な面を克服しながら、交通至便である立地条件により総合的な評価を得て進めていくものであります。</p> <p>臨海部に限定していた企業立地奨励金の地域限定を無くし、市全体を視野にしていこうとしている現状の中、電気事業の緩和等がされても、すぐにそれに特化して進めていくのは難しいと考えます。</p>
4	<p><b>総合戦略(案)</b> <b>P6 (1)農水産業の振興</b></p> <p>今後とも事業を継続推進をお願いしたいですが、重点戦略事業の多面的機能支払交付金事業が、話に聞くと慣れてきたのか飲み食いやお土産で野菜を出したり、農薬を渡したり、無駄使い多いような気がします。正直勿体ないです。地域に交付しても水路の修繕、水路掃除(土上げ)や転作のための排水口の下げる等などをおこなってほしいです。田んぼの排水路は、土で埋まり、排水が滞ってます。ぜひ、考慮して欲しい。</p>	<p>多面的機能支払交付金事業における各保全隊の活動内容としましては、農地法面の草刈りや水路の泥上げ等の保全活動、水路の軽微な補修や長寿命化のための補修・更新等を実施しております。</p> <p>毎年、保全隊より年間の活動内容や金銭の収支報告を提出していただき、不適切な執行がなされていないか確認作業を行っており、引き続き適切な執行がなされるよう確認を行ってまいります。</p>

<p>5</p>	<p><b>総合戦略(案)</b> <b>P7 (2)担い手の育成</b></p> <p>水田等は、人・農地プランに基づき、ゾーニングしているが、新規参入を阻害したり、規模拡大を阻害していると思われます。ぜひ、第3者的アドバイザーなどの意見を聞き、調整しつつ、いつでも受け入れの機会を作って頂きたいです。</p> <p>また、金魚の後継者ですが、愛西市のように、レンコン道場で新規の後継者を作ったように、「金魚道場」を開き、研修を補助し担い手新規養殖業者を作りたいです。</p>	<p>担い手への農地集積の推進のため、人・農地プランに基づき、ゾーニングしております。</p> <p>しかし、それが新規参入を阻害したり、規模拡大を阻害しているようであれば、検討する必要がありますので、農政課までお申し出ください。</p> <p>また、金魚の後継者育成については、そのための協議会を組織し、検討してまいりました。話を聞くためにレンコン道場の関係者の方にもお集まりいただき研修会も行いました。</p> <p>しかしながら、水産関係補助金も食べ物に対するものとは違い、観賞用となると補助金は皆無に等しく、厳しい状況であります。</p> <p>また、開業するための設備投資に対する負担の違いもあり、道は険しい状況ではありますが、今後も協議会を継続して協議してまいります。</p>
<p>6</p>	<p><b>総合戦略(案)</b> <b>P8 (3)企業誘致の推進</b></p> <p>南部地域の企業誘致は良いけれども、地域の阻害となる住宅街の大型トレーラーの進入や優良農地の地域の将来を考えない虫食い転用が、近年多くみられる。どんどん増える中古車のヤードなどの建設は、周辺地域に迷惑するナンバーなし車の無謀運転、道路逆駐車、ごみの違法放置等、何でもありの無放置地帯である。若い世代の家族は、子供の危険、年老いた方々の事故等を招きかねないと思い、ますます、定住化をしなくなり過疎化になります。弥富市は北部ばかりではありません、上から下、南部まで弥富市です。もう少し、市の条例等を作り規制して頂きたいと思う。</p>	<p>農地を農地以外の利用に転用する場合は、転用する理由や規模、場所等、許可の要件に該当しているかどうかの審査及び愛知県への許可が必要となります。</p> <p>申請に際しては、転用後の利用が周辺地域に迷惑をかけないことを前提に、地域への利用計画書の提出と説明をしていただき、承諾を受けた場合のみ受付を行っております。</p> <p>なお、転用後に周辺地域に迷惑をかけるような行為があれば、関係機関と連携して行政指導を行っております。</p>

7	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P11(2)子育て世代や若者の呼び込み</b></p> <p>大学、専門学校を誘致して学生に弥富に住んでもらう。交通便利な弥富は好立地です。</p>	<p>ご提言いただきましたとおり本市は交通の利便性が高く、好立地なまちであります。</p> <p>今回の総合戦略では、5か年で成果を出す必要があるため、ご提案のありました大学、専門学校の誘致より、本市の暮らしやすさを最大限に活かしながら、若者がいつまでも住み続けたいと思える環境づくりに努めます。</p>
8	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P17～18 (4)学校教育・生涯学習の充実の主要事業:図書館蔵書充実事業</b></p> <p><b>親と子どもへの読書推進について</b></p> <p>図書館本館では子どものための「おはなしの部屋」や定期的なおはなし会もあり、乳児用のベビーベッドも設置され、司書の方もとても親切で丁寧な対応をしてくださっています。図書館職員の方は近隣の図書館のこともご存知と思われますので大変恐縮ですが、母親目線としての意見を述べさせていただきます。</p> <p>乳幼児期から絵本に接する機会を増やすことで今後の利用者を増やすことにも繋がると思われますけれど、「図書館」という静かな空間は元気いっぱいの幼児や、怖がりの子どもなどを連れてくるとゆったり本を探すとすることは難しいです。また、子どもは大人と違って順を追って読むのを聞いてくれなかったり、本を読むのをせがまれて大変になったりして、育児初心者には読み聞かせが難しいこともありますので、以下のようなことができれば良いのではと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆子育て支援センターなどと連携して親子の読み聞かせ方法や絵本の選び方講座の開催</li> <li>◆子ども目線の図書の配置(現状、赤ずきんちゃんなどの名作の場所も探せません)</li> <li>◆年齢別、読書能力別お勧め図書のスタンプラリーや簡単な読書ノートの配布</li> <li>◆幼児連れでも利用しやすい子ども専用図書室、もしくは子育て支援センター内などで育児書や絵本の貸し出し(一宮市の子ども文化広場図書館へ行ってみたいです)</li> </ul>	<p>子育て支援センターは児童課管轄で、現在、弥生、ひので及び東部保育所の3ヶ所で元保育所の職員が4～9名程度配属しております。妊婦さんから未就学児の親子を対象に、絵本の読み聞かせ、体操教室及び工作等を行っており、利用される方も多いようです。このようにそれぞれが独自で実施しており、図書館との連携としては選書時に相談をしております。</p> <p>児童書を探す場合は、配架が出版社名の五十音順で案内表示しておりますので、最初にOPAC(資料検索機)で本の題名を検索してから出版社名で探して頂くとうわりやすいと思います。</p> <p>年齢別・読書能力別・お勧め図書のスタンプラリーは、資料冊数、貸出期間等の関係から導入することは難しいと考えております。また、自分が読んだ本を記録管理できる読書ノートは、読書意欲の増進が図られるメリットがあり、今後は他市の図書館を調査・研究し導入を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>絵本から児童書へのステップアップの方法や読書障害についての指導は、図書館としての役目の中で増強を図っていきたいと考えております。</p> <p>返却ポストの設置場所の増設は、ポストや資料を管理する上で、現段階の状況においては適切ではないと考えております。</p> <p>今後も親子の読み聞かせなどに関する情報提供の充実や利用しや</p>

	<p>◆絵本から児童書などへのステップアップの方法や、読書障害(親の強制により自分で本を選べない子や親の放置による読書の偏りからの弊害)などについての指導</p> <p>◆返却を便利にするための返却ポストの複数個所設置</p> <p>※近隣の図書館では名作映画の上映や愛西市のパブリックコメントでは子ども読書活動推進計画が現在募集中のようです。</p>	<p>すい図書館づくりに努めてまいります。</p>
<p>9</p>	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P17～18 (4)学校教育・生涯学習の充実の主要事業:図書館蔵書充実事業</b></p> <p><b>十四山支所図書コーナー蔵書の有効活用</b></p> <p>現状どのようになっているかはわかりませんが、今後新たな図書施設の検討がないのであれば幼稚園、保育所、小中学校などに譲ったりはしないのでしょうか。子どものお気に入りの本も多数あったので気になります。</p>	<p>十四山支所図書コーナーは、新庁舎建設に伴う仮移転事業により、平成27年8月30日をもって閉館しております。現在、再開の方針は決まっておりません。</p> <p>現在は、以前に所蔵していた資料の約14,700点の内、3,700点(約25%)余りは本館に所蔵替えを完了し、残り11,000点余りは十四山東部小学校に一時的に保管しております。</p> <p>今後は本館の受入れ体制を整えつつ徐々に所蔵替えを行う予定をしております。ただし、全ての資料を本館へ所蔵替えすることは配架スペースの関係から困難でありますので、市内施設への寄贈を含めた蔵書の有効活用を考えていきます。</p>
<p>10</p>	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P17～18 (4)学校教育・生涯学習の充実の重点戦略事業:英語指導及び主要事業:図書館蔵書充実事業</b></p> <p>図書館、学校図書への語学学習に対する多読図書やオーディオブックについて</p> <p>英語授業の低年齢化などに伴い、幼児英語テレビ番組、学習教材、習い事や英語育児の本やウェブサイトが増えています。その中でも愛知県の英語多読用の図書所蔵は全国でも特に多く、英語絵本の読み聞かせは特に効果が高いと聞きます。しかし残念ながら弥富市立図書館では他市町村から相互貸借してもCDだけは貸し出し不可のため、書籍しか借りることができません。子どももせっかく学んだ英語を教科書のみではなく、洋書を読む、英語を気軽に楽しむ</p>	<p>小中学校の英語指導については、生きる力の育成を重視した教育活動の推進のもと、小学校における英語の教科化に向け、指導体制の強化及び英語指導助手(ALT)の活用促進をめざしたいと考えております。また、今後、英語指導の中に、積極的に英語洋書絵本の活用及び音声CDの利用、英語絵本の読み聞かせ等を取り入れ、英語教育の充実に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>図書館における洋書絵本、多読コーナーについては、現在外国語本コーナーを設けており、今後も積極的に収集を図りたいと考えております。</p> <p>オーディオブックについては、現在導入は考えておりませんが、英語版</p>

	<p>機会があると動機付けにもなり良いのではないのでしょうか。また、簡単な一文の英語から入る多読は大人の英語学習にも効果的とのことです。</p> <p>※イギリスの国語教科書でもある絵本「オックスフォード・リーディング・ツリー」は一宮市や小牧市の図書館に音声CD付きであり、また大阪市では小・中学校、英語教育指導重点校用の教材として採用されているそうです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆英語洋書絵本、英語多読コーナーを設ける</li> <li>◆語学オーディオブックの取扱い</li> <li>◆洋書絵本の寄付募集(募集によって洋書絵本コーナーのPRにもなるのでは)</li> </ul>	<p>の昔話や子ども向けの歌のCDを所蔵しておりますので、そちらを利用していただきたいと考えております。</p> <p>寄付募集については、寄贈資料受入基準があり、申し出があった場合は、本の状態や需要など総合的に判断し受入れを検討する方針ですので、募集は考えておりません。</p>
11	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P19 (5)仕事と生活の調和の実現</b></p> <p>仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の中の、子育て、介護については、育児介護休業法という法律があり、法が最低限求めていることがあります。しかし、実態として子育てや介護で離職を余儀なくされているという現状もあります。法の内容を知らず、経済的な支援を受けて、仕事をしながらも、家庭と職業生活を両立できることができるにも関わらず、そのような事態になっていることもあるかもしれません。一方、企業側でも、そのような事態に直面したときに、どのように対処すべきか思慮することも多いと思われます。働く人、会社が両輪となりこのような事態に、お互いが前向きに対応していくべきではないのでしょうか。</p> <p>市としての育児や介護に対する支援と、法で定められている権利や支援、会社に法が求めている義務などをわかりやすく気軽に聞けることが、市民への安心できる生活につながり、よりよく住みやすい弥富市づくりにつながっていくように思います。</p> <p>今後、法改正の動きもあり、この法律がキーポイントになっていくのではないのでしょうか。専門家や国の機関に相談する方は限られているように思います。そこで、専門家の相談を気軽に受けられるような機会をつくることは、市政においても必要ではないのでしょうか。</p>	<p>国は、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」として、官民一体となって取り組んでいかなければならないとしております。また、仕事と生活の調和と経済成長は車の両輪であり、若者が経済的に自立し、性や年齢などに関わらず誰もが意欲と能力を発揮し労働市場に参加することは、我が国の活力と成長力を高め、ひいては、少子化の流れを変え、持続可能な社会の実現にも資することとなるとしております。</p> <p>ワーク・ライフ・バランスは子育て期や一部の職場だけの問題ではなく、老若男女すべての市民の理解が極めて重要であり、情報提供・啓発を積極的に進める必要があるため、総合計画後期基本計画に掲げるワーク・ライフ・バランスの推進を引き続き行ってまいります。</p> <p>ご提言いただきました気軽に相談が受けられることの提供については、今後の「仕事と生活の調和の実現」に向けての取り組みを行う上で、貴重なご提言として参考にさせていただきます。</p>



12	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P19 (5)仕事と生活の調和の実現</b></p> <p>働く女性のための民間保育所多数作ってもらい働きやすい弥富に住んでもらう。</p>	<p>本市におきましては、保育所入所希望者が年々増加しておりますので、民間保育所を設立、運営する事業者がありましたら、市として開設支援をまいります。</p>
13	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P20 安心な暮らしを守る</b></p> <p>病院を誘致して世界から患者様、家族を弥富市に来てもらう。従業員、職員は弥富に住んでもらう条件で…。それには小学校は移転する。病院の街にする。</p>	<p>本市は、海部医療圏にあり、その中で救命医療、がん対策、周産期医療対策等を地域全体で支えるため、地域医療連携をとっています。</p> <p>これは、高度急性期医療を提供する病院から、急性期、亜急性期、回復期、慢性期医療を担う病院、診療所まで、機能の異なる医療機関が協力して切れ目のない医療を提供しようとしています。</p> <p>海部地域の基幹病院である津島市民病院、あま市民病院とともに、本市の厚生連海南病院の役割は大きくなってきています。</p> <p>この海部医療圏保健医療計画の中には、弥富市に新たな病院誘致の計画はありません。</p> <p>そのような中、高度化、多様化する医療ニーズにこたえられるよう、市内外の医療機関との連携や広域的連携のもと、市民の健康管理意識の高揚と自主的な健康づくり活動の促進を基本に、各保健事業のさらなる充実を進め、市民の皆様が生涯にわたって健康で安心して暮らせるよう努めてまいります。</p>

<p>14</p>	<p><b>総合戦略(案)</b>  <b>P21 (2)災害に備えた対策の推進</b></p> <p>近年、明らかに、将来、消防団の団員が減少するのは明らかである。現在の消防団の幹部さん達の新入団加入の勧誘をされていますが、苦勞はすごくわかります。この問題は、以前から言われていました。KPIを出すばかりでなく、現状を見るべきであります。</p> <p>昭和時代に活躍されていた団員さんの息子さんたちが、今加入時期ですが、訪問して、息子さんに会う前にその両親に断られるみたいです。良さをわかって欲しいのですが・・・。</p> <p>ボランティアではありますが、やはり、地域のつながり、地域を守るためということで伝承すべきであります。自治会と消防団の協力で、「次に入会するのは、この子達だよ」と自治会で紹介し勧誘すべきである。地域の皆さんで盛り上げる。そうすると、「あ～、あそこの息子さんか？」ということになり、つながりが出来ると思います。</p> <p>また、最近新聞で掲載された岐阜県の「消防団協力事業所支援減税制度」や「消防団インセンティブ制度」を参考にすべきである。</p> <p>さらに、入団する団員は、市民税などを優遇するというは、いかがでしょうか？ぜひ、提案させていただきたいです。</p>	<p>災害に強い安全・安心なまちづくりのために、普段からの地域コミュニティにおける「わがまちは、わが手で守る」という共助が地域社会の防災力を強くすることに繋がります。</p> <p>とりわけ、消防団は地域に密着し、火災のみならず、災害時における救助や住民の避難誘導など、地域防災の中核として重要な役割を果たしていただいております。</p> <p>そのような消防団の団員の確保については、社会構造・就業構造の変化や人口の減少、地域における連帯感の希薄化などに伴い難しくなっております。</p> <p>市としましては、消防団員確保に向け、広報やホームページにおいて活動報告や消防団の魅力を発信するとともに、春まつりなどのイベントや駅前でのPR活動を行っております。</p> <p>消防団員加入促進策について様々な方向から検討をしている中で、ご提言いただきました「消防団協力事業所支援減税制度」や「消防団インセンティブ制度」など幅広い助成事業も喫緊の課題として取り組んでまいります。なお、市民税優遇については、税の公平性等の課題があり難しいと考えるので、貴重なご提案として参考にさせていただきます。</p>
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

意見募集時の公表資料

弥富市人口ビジョン(案)及び弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)

問合せ先

総務部秘書企画課 地域振興グループ 電話 0567-65-1111 内線222